

# 平成28年度第1回麒麟のまち創生戦略会議議事概要

**日時** 平成28年4月13日(水) 午前10時～11時  
**場所** 智頭町総合案内所(観光協会)2階 大会議室  
**出席者** 鳥取市長、鳥取市副市長、岩美町長、若桜町副町長、智頭町長、  
八頭町長、香美町長、新温泉町長

## 議事概要

《鳥取市副市長》第1回麒麟のまち創生戦略会議を開催する。今後の連携事業についての協議を行っていただければと思う。

### 1. あいさつ

《智頭町長》地方創生ということで、連携する事業には、国も手を差し伸べるという兆候が見られる。互いが手を組んでそれぞれの個性を活かし合うとういことがベター。

《八頭町長》東京と大阪での移住定住相談会により、多くの皆さんがおいでいただけたらと思う。八頭町単独では、ミニSLなどを核とし、大江ノ郷、竹林公園、はやぶさ、ライダー等でひとつの観光ゾーン・教育ゾーンを組みたい。

《香美町長》鳥取県東部には次々と新しい施設が出来ていて、活力を見た思い。今年度も、ご支援、ご協力をお願いしたい。

《新温泉町長》東京で行われた移住定住相談会では、移住定住希望者の要望に、必ず圏域内のどこかの市町が当てはまった。各個性を磨き、圏域全体として、今の課題に応えられる活動・事業であってほしい。圏域をさらにグレードアップしたい。

《鳥取市長》地方創生の取組は、産学官金労言あらゆる分野の方と連携をして取り組むこと。歴史や文化を共有する自治体同士が一体となって取り組むということが大切。昨年度は交付金等を活用し、SL、仁風閣の3Dプロジェクションマッピングを開催した。複数の自治体で連携することにより生じる付加価値を、多くの方々に実感していただけた。東京と大阪での移住定住相談会の参加者は、東京27名、大阪63名。そのうち東京12名、大阪37名の方が、具体的に移住してみたいという、予想以上の反応を得ることができた。平成28年度は、この成功体験を更に深化させ、具体的に進めたい。国の交付金を活用し、圏域全体の観光ネットワーク体制、移住定住の促進など、いろいろな取り組みをスタートすることになる。

《岩美町長》観光については、周遊、滞在ともに、無いものを圏域全体で補い合い、結びつけ、磨き上げていくことが地方創生の一番の狙いになる。移住定住は、働く場所は鳥取市にお願いし、住む場所は我々のところでと思う。

《若桜町副町長》昨年9月末までの20名程度の移住者を、確実に定住に繋げることが大事。圏域内の交流人口を増やし、圏域中でそこに住んでみようというようになればいいと思う。

### 2. 報告事項

○地方創生加速化交付金の事業採択について《鳥取市》資料1

### 3. 協議事項

## (1) 地方創生加速化交付金を活用した平成 28 年度 of 取組について

《鳥取市》資料 2-1、資料 2-2

### 意見・質疑応答

《鳥取市長》DMOについては、1 市 4 町で申請をしているのか。

《鳥取市》1 市 4 町の区分による、鳥取因幡観光ネットワーク協議会を候補法人として登録申請をしている段階。28 年度 DMO についても検討し、併せてグランドデザインの中で、香美町、新温泉町も加えた形成もできないか検討も進めたい。

《鳥取市副市長》観光ネットワーク協議会で、新温泉町、香美町の観光協会に説明するのか。

《鳥取市》行政も一緒になって、説明したい。

## (2) 連携中枢都市圏の形成に向けた勉強会(総務省委託事業活用)の立ち上げについて

《鳥取市長》連携中枢都市圏の形成に向けた勉強会については、かなりの額の総務省委託費用が活用できる。県境を超えた広域連携ということで、定住自立圏の取り組みを進めているが、これは更に深化をさせて連携中枢都市圏を形成するため、更にいろいろな取り組みを進める良いチャンスである。財政措置についても、1 市 6 町で総務省に制度や財政措置の拡充等の要請なども行えればと思う。

《鳥取市》資料 3-1、資料 3-2

### 意見・質疑応答

《岩美町長》研究を進めることは賛成だが、間伐の対象にならないようにと思っている。

《八頭町長》“麒麟のまち”ということで、新温泉町、香美町の 2 つの町を含めてという解釈で良いか。

《鳥取市副市長》はい、圏域一体として考え、どう発展するかである。

《若桜町副町長》産業構造等ということで、生活関連施設というか、例えば病院の問題などの医療圏等のデータも一緒に調査される予定か。

《鳥取市副市長》はい、そういったことも含めて。生活圈、文化圏という括りの中で、行政の枠を超え、実際、人の動きなどを見極めて。

《若桜町副町長》実態把握、分析はコンサルに出してやっていくのか。

《鳥取市》スケジュールにもあるが、事業をコンサルに依頼しようと思っている。

《鳥取市副市長》地方創生も、コンサルに依頼するより、職員が出てやった方が良い面が出てきていることもあるので、見極めてやっていくべき。

《鳥取市》現在、依頼したコンサルでは、700 万円程度の委託での仮見積もり。あとは我々の努力が必要。申請額は、それに沿った会議の経費等。

《八頭町長》応募が多ければ、ある程度認めて額が下がるのか、選定基準要件などで、絞って決めていくのか。

《鳥取市》応募が多く、額が下がってきたという情報は得ている。

《香美町長》連携中枢都市の要件というのは、人口要件とか、そういうことか。

《鳥取市長》(国は) 基準や要件はかなり無理して、圏域で研究していくことについて委託事業で支援していくのではないか。形成することについて、事前の調整が行われてなくても対象になるということで、要件は、研究段階なので、要件は緩いのではないか。その前提・基準要件というのは、鳥取市も中核市になることが要件となる。

- 《若桜町副町長》6月の選定・採択の時点で額が決まるのか。
- 《鳥取市》 基本的には6月の選定・採択の時点で決まる。
- 《岩美町長》具体的に調査、計画作りのイメージやスケジュール等を考えているか。
- 《鳥取市》 連携中枢都市については、連携中枢都市の宣言、関係自治体での連携協約の議決、連携協約の締結等を行うという流れ。調整が順調に済めば、平成29年9月とか12月の議会で連携中枢都市宣言を行うことが可能。30年の4月に鳥取市の中核市の移行、連携協約の締結予定。
- 《鳥取市副市長》調査結果とか人口動態・産業構造等を分析した結果は、平成29年度の事業の交付金活用事業に使い、麒麟のまち創生戦略会議を進めていく。
- 《八頭町長》圏域ビジョン案の作成は、地方創生の総合戦略と一環の事業か。
- 《鳥取市》 圏域ビジョンの作成ということで、いろんな事業がこの調査の中で出てくる。今後、我々の連携していく事業に反映させ、各市町のビジョンも、それに伴ったPDCAで回転していく、関連していくイメージを持っている。当然ひとつの交付金の要件にもなってくるので、戦略の中に位置付けていけばいい。これはこれでビジョンの中での両立で打ち出していけばいいのではないか。戦略の方は適宜見直しをするので、新規事業が出れば、総合戦略に乗せていけばいい。

#### その他

- 《八頭町》 平成27年度行った、広域観光ブランドデザインの基礎調査の概要・傾向はどうか。
- 《鳥取市》 アンケート調査等を実施し、宿泊が約57%。宿泊は1日が85%。リピーターが69%という結果。交通手段は自家用車が58%で、滞在時間の延長、団体向けの二次交通の充実、団体の受入態勢の整備等の課題が読み取れた。
- 《鳥取市長》1市4町で商工会議所と意見交換の機会を持たせていただいた。地方創生は産学官金労言といろんな分野の方と連携して、行政だけでなくいろんな方面の方と取り組んでいく。経済界の、例えば商工会とかと一緒にやろうという話もある。商工会議所、商工会、1市6町で、経済界の方との意見交換、連携による観光の取り組み、移住定住と広がるのでは。またこういった経済界の方との連携、意見交換の場を設けたい。

#### 5. 閉会